

1学年だより

No. 1 7
令和7年10月3日(金)発行
大鳥中学校第1学年

欠席等の連絡確実に

登校日、家を出てから生徒たちは、学校の責任下になります。欠席か遅刻などの連絡は、アプリ「リーバー」での連絡、毎回ありがとうございます。所在不明は事故や事件に巻き込まれたということも考えられるため、今後も毎朝の確実な連絡をお願いします。

「総合的な学習の時間」研究授業で1年生、先生方から賞賛される

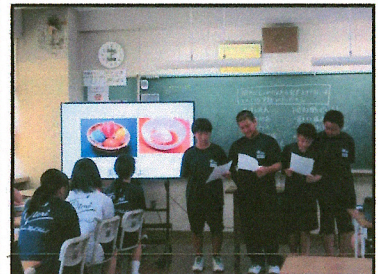
学年だより No16 でもお知らせしたとおり、今年度、大鳥中学校は福島市教育委員会研究委託校に指定されております。11月に公開授業がありますが、先日29日(月)には、「総合的な学習の時間」の研究授業を実施しました。

当日の授業では、代表して2つのグループに生徒発表を行っていただきました。

金田紗蘭さんを中心としたプレゼンテーションは、飯坂町活性化のための具体的な取り組みをいくつか紹介する内容でした。AIを有効活用し、提案発表内容にぴったりのイラストやタイトルなど非常に素晴らしく、「すごい!!!」の一言でした。今回の授業までに、まとめる授業時数が少なく、作成や発表練習など、ほとんど大半を生徒たちに委ねてしまい、プレゼンを見るのも今回の授業が初めてでしたが、さすが大鳥中1年生と、そのレベルの高さに自慢できる内容でした。

もう1グループは齋藤勇太郎さん・木村弥太さんを中心とした漫談による飯坂町紹介についての発表は、ユーモアあふれた内容でした。さらにIT機器操作の吉井快さんは、見事な映像作成と漫談に合わせた画像映像で、非常にセンスを感じさせるものでした。10月18日(土)開催の鵬鳳祭では、総合学習の素晴らしい発表をお楽しみください。

ゲストティーチャーのフォトスタジオ kokoro 河原田充さんからは、授業まとめの段階で感想をいただきましたが、今回の生徒たちの取り組みは100点と、お褒めの言葉をいただきました。今後、11月の公開授業本番へ向けて、さらに120点、150点を目指してほしいと激励の言葉をいただきました。画像は授業の様子です。



学力向上のためには自分に合うアドバイスを受けることも重要

私(小笠原)自身の中学生時代について触れたいと思います。大分昔になりますが、私にも中学1年生という時代がありました。私は、中学生になって新しく学ぶ英語(私の時代、小学校では英語の学習がなく、アルファベット読み書きだけの学習でした)が非常に苦手で、全く授業についていけませんでした。

「one」と教科書に載っている単語が、なぜ「ワン」と発音するのか全く分かりませんでした。「オネ」と発音するのなら分かるのだが...

また「rainbow」の意味は「にじ」なので、「rain」が「に」で、「bow」が「じ」なのかな...とも思いました。しかし違うようで、ますます英語が分からなく、嫌いな教科になりました。一度嫌いな(苦手)な教科と意識すると、克服するまではかなりの時間がかかるようです。中学3年間、私にとって英語はずーっと苦手な教科でした。

高等学校では、1年生最初の定期テストで、まともな点数をとれなかった生徒を英語の先生は一人一人呼び、勉強法などアドバイスを送りました。私は、点数がもの凄く悪かったわけではなく、英語の先生からの呼び出しはありませんでしたが、アドバイスを聞こうと自ら先生を訪ねました。先生は驚いていましたが、私のやる気を感じていらっしゃったようです。

どんなアドバイスをいただいたかという、「英語は暗記だ。教科書の文すべて暗記しなさい。」というものでした。私は衝撃を受けました。中学生の時は、先生方から「丸暗記ではだめだ。」とどの教科でも繰り返し教えられていたからです。

もちろん、暗記だけでなく、その内容や前後関係、経緯、応用など、学習する上で必要なことは数多くあると思います。しかし、何度も何度も繰り返し教科書を暗記したことで、分からなかった意味や文の活用など次第に理解することができるようになり、高校3年生の時には、得意教科とまではいかなくても、苦手意識はなくなっていました。私は、今でも高校1年生の時の英語の先生に感謝しています。

さて、今の1年生については、アドバイスは私たち教員が的確に送りたいと思います。それを受けて勉学に励んでほしいと願います。校内の先生方から1年生の能力の高さについて、よく話題になります。まだまだ発展途上というか、さらに高い次元でのレベルアップができると感じています。

しかし、同じ人が同じことを話していても、心に響かなくなってしまうこともあるでしょう。そんな時、総合学習ゲストティーチャー河原田さんのような、外部の方からのアドバイスが心に響くことがあります。

保護者の皆様も、様々な機会を通して、お子さんのよりよい成長のために、良いアドバイスが受けられる機会をたくさんもてると良いと思います。

